

【学力向上フロンティアスクール中間報告】

都道府県名	富山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	富山市立針原小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	74	75	51	79	57	52	2	390	

研究の概要

1. 研究主題

自分らしさを発揮し、主体的に追究する子供の育成

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1～6年・国語科
 文章を豊かに読むことや、自分の考えをしっかりと表現できる子供の育成を目指すため。文章を読むことや考えを表現することは、すべての学習にかかわる大切な力であり、他の教科の学び方にも大きく影響すると考える。

1～6年・算数科
 技能面、思考力の面で能力差がでしやすい教科であるため。T・T指導や等質、課題別、習熟度別コースなどの少人数指導によるきめ細かな指導形態で学習を進め、一人一人の確かな学力の向上に努める。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度

テーマ
 豊かに表現し学び合い創り合う中で、確かな学力をはぐくむ。

研究の見通し
【国語科部会】
 (1) 「読むこと」を基盤として「話すこと・聞くこと、書くこと」が効果的、計画的に行われるような学習活動を工夫し、確かな理解力や適切な表現力を身に付ける。
 (2) 言葉へのこだわりをもって読み、自分なりの考えを伝えたり友達の考えを聞いたりする場を工夫し、学び合う楽しさや満足感を味わわせる。

研究の内容
 (1) 子供の思いや願いが高まる教材開発と単元構想の工夫
 (2) 自分の読みを大切にして、他とかかわり合う場の設定と指導の工夫
 (3) 国語パワーアップタイムや朝のブックタイムの充実

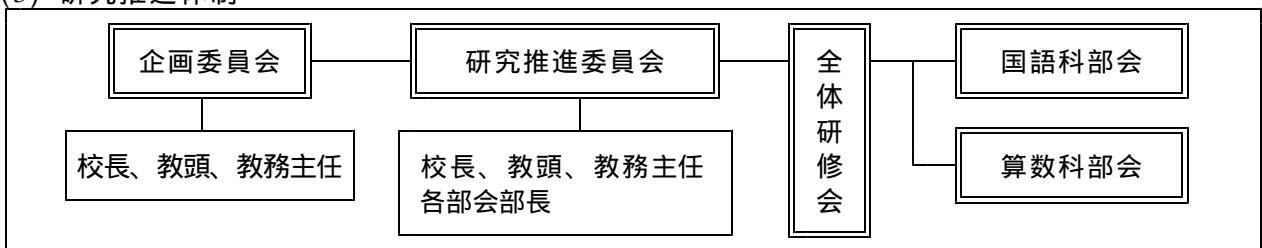
【算数科部会】
 研究の見通し
 (1) 子供の実態に応じたきめ細かな指導形態を工夫し、分かる楽しさや解決していく満足感を味わわせ算数好きな子供を育てる。
 (2) 子供同士がかかわり合いながら追究する学習過程を積み重ね、追究の楽しさやおもしろさを味わわせる。

研究の内容
 (1) 一人一人の考えのよさを生かすためのT・T指導や少人数指導を取り入れたきめ細かな指導の工夫
 (2) 一人一人がしっかりと自分の考えをもち、友達とかかわり合う場の工夫
 (3) 算数パワーアップタイムの充実

研究の方法
 ・ 国語科部会、算数科部会の各部会で、研究仮説・内容を具体化し、研究主題の解明を目指す。
 ・ 授業研究を通して、追究の深まりや高まりを分析・評価し、学力の向上と指導法の改善を図る。

平成 16 年 度	<p>テーマ 豊かに表現し学び合い創り合う中で、確かな学力をはぐくむ。</p> <p>【国語科部会】 研究の見通し (1) 感じたことや思ったことを書き表す活動を積み重ね、豊かな表現力をはぐくむ。 (2) 互いの読みをかかわらせ合う場を工夫し、自分の読みを友達に伝えたいという意欲をはぐくむ。</p> <p>研究の内容 (1) 自分の思いや願いを豊かに表現したり、読みを深めたりするための書く活動の工夫 (2) かかわり合うことで読みを深めていく話し合いの場の工夫 (3) 国語パワーアップタイムや朝のブックタイムの充実</p> <p>【算数科部会】 研究の見通し 課題別や習熟度別学習をもとに、個に応じた分かる授業を工夫し、確かな学力をはぐくむ。</p> <p>研究の内容 (1) T・T指導や少人数指導のよさを位置付けた指導計画の工夫 (2) 「分かった」「できた」という充実感が味わえるきめ細かな指導の工夫 (3) 指導と評価の一体化を目指した教師による子供理解の工夫 (4) 算数パワーアップタイムの充実</p> <p>研究の方法 ・ 国語科部会、算数科部会の各部会で、研究仮説・内容を具体化し、研究主題の解明を目指す。 ・ 授業研究を通して、追究の深まりや高まりを分析・評価し、学力の向上と指導法の改善を図る。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>国語科部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉へのこだわりをもって文章を読み深めるには、一人学習の時間を十分に保障し自分の考えをしっかりとらせていくことが大切である。また、そのための手立てとしては、低学年では繰り返しの音読、中学年では主人公や登場人物の気持ちをワークシートに書き表しその変容を考える、高学年では自分の課題を決め、その課題解決を目指して一人追究を行うなどの発達段階を考慮した学習が効果的である。 主人公や登場人物の気持ちや心情を詳しく読み深めていくためには、どの学年においても教科書の教材文と関連のある書物（同一作者による本やシリーズ本等）を提示し、教材文と重ね合わせて学習を進めるような単元構想を工夫することが効果的である。他の本の出来事や事実と結び付け多様な見方や考え方ができるようになり、気持ちをより深く考えたり、その背景を読み取ったりすることができる。 <p>算数科部会</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数指導では、グループの人数が少なくなるため、どの子も発言できるというよさがある。考えをじっくり聞き合ったり、その子の考えをみんなで話し合ったりと、子供の学びに寄り添った指導が行いやすい。 習熟度別学習では、グループ内の子供の学力が同程度なため、そのグループの実態に即した指導が行える。特に基礎的、基本的内容の補充的学習やより高い好奇心を満足させる発展的学習に有効である。
--

日々の取組み

- 100マス計算、音読、詩の暗唱、漢字練習などを週3回15分ずつ、学習時間に位置付けて行っている。100マス計算では、回数を重ねるごとの正答率が向上し、所要時間が短くなってきている。「読む、書く、計算」はいずれも基礎的な技能ではあるが、学習に欠かすことのできない力である。今後もその力量の向上を図っていききたい。

子供たちの意欲

- 少人数での勉強について

少人数での勉強が好きだ..... 68 %
 少人数だと分かりやすい..... 68 %
 算数の勉強が好きになった..... 13 %
 (以前から好きだった 50 %と合わせると 63 %が好きと答える)

好きな理由として、「ゆっくり勉強できるから、あるいは、どんどん進めるから」という思いがある。子供の実態に即したきめ細かな指導が、子供にも受け入れられていると考える。

- 100マス計算について

100マス計算は楽しい..... 74 %
 あまり楽しくない..... 11 %
 力が付いてきた..... 79 %

「楽しい74%、力が付いてきた79%」は、計算テストで80点以上をとる子供の割合とほぼ同じで、計算に自信があり自分の計算のスピード記録をつくることを楽しみにしている子供たちである。楽しいからこそ力が付くといえる。

2. 今後の課題

- 豊かな表現力をはぐくむためには、書く、話す、読むなど日々の積み重ねを大切にしていかなければならない。その中でも感じたことや思ったことを書き表す活動は、表現力を高めるために欠かすことができない。書くことに焦点を当てた指導を工夫していききたい。
- 課題別、習熟度別でのよりきめ細かな学習を展開するために、学年を3グループに分けて学習を行うなどの工夫をしていききたい。
- CRTなどの各種検査を分析し、学年・学級の問題点を明らかにし、弱点を克服するための指導計画や単元構想を工夫し、指導の充実を図っていききたい。

学力等把握のための学校としての取組み

CRT目標規準準拠検査

算数科について、3年生以上の児童を対象に年度初めと終わりに実施する。年度初めの実施では、一人一人の達成度や学年・学級としての課題を把握し指導に生かす。年度終わりでは、学力の向上と指導の成果・問題点を明らかにする。

漢字・計算チャレンジテスト

10月及び2月に、全校児童が80点以上の得点を目指して、漢字の習得、計算力の向上を目指して練習に取り組み大会を行う。80点に達しない児童には個別指導や再テストを行い、どの子にも確かな基礎、基本的技能が身に付くよう指導していく。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 学校だよりにて、本校の取組み(国語科と算数科に重点を置いた学力向上フロンティアスクールとしての取組み)を保護者に知らせる。また、年度末には、この一年間の成果を知らせる。
- 平成16年11月中旬に研究発表会を行う予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7~12学級
 13~18学級 19~24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無